

III 調査結果のあらまし

第46回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割近くであった。

(2) 好きな理由

宇都宮市で好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が5割を超えて最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「街に活気がないところ」が4割近くで最も高く、次いで「交通マナーの悪さ」「交通渋滞の多さ」「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が7割を超えて最も高く、「手に入れていない」は1割半ばである。

(1-1) 「広報うつのみや」の閲読状況

「広報うつのみや」を入手していると答えた方に、どの程度読んでいるか聞いてみると、「くわしく読む」と「ざっと読む」と「関心のあるところだけを読む」を合わせた【読む（計）】は9割であった。一方、「あまり読まない」と「まったく読まない」を合わせた【読まない（計）】は1割弱であった。

(1-2) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」を読んでいると答えた方に、主にどの記事を読んでいるか聞いてみると、「健康・福祉・保険・年金」が5割で最も高く、次いで「暮らし・住まい・環境・安全・交通」「各施設の催し物（宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など）」「特集（市の重点事業）」「文化・教養・スポーツ」と続いている。

(1-3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していないと答えた方に、入手していない理由を聞いてみると、「入手方法を知らないため」が5割を超えて最も高くなっている。

(2) 「広報うつのみや」で充実してほしい情報

今後、「広報うつのみや」で取り上げてほしいまたは充実してほしい情報については、「身近な暮らしに関すること」が3割半ばを超えて最も高く、次いで「保健・医療など健康に関すること」、「市の行事や催しのお知らせ」、「市の各種制度や事務手続きの説明」が約3割であった。

(3) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

「広報うつのみや」以外の10の広告媒体について、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見た（聞いた）ことがある（計）】は、「インターネット（宇都宮市ホームページ）」が3割半ばで最も高く、次いで「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」が2割半ばであった。

(4) 市政情報を得るために利用したい手段

今後、市政に関する情報をどのような手段で知りたいか聞いたところ、「広報うつのみや」が7割で最も高く、次いで「新聞」、「テレビ」、「ホームページ」と続いている。

3. 自治会について

(1) 自治会加入状況

自治会の加入状況については、「加入している」が8割近くであった。

(2) 自治会加入のきっかけの理由

自治会加入のきっかけの理由については、「昔から入っていてきっかけは無い」が5割半ばで最も高く、次いで「自らの申込み」「自治会長や班長からの勧め」と続いている。

(3) 加入していない理由

自治会に加入していない理由については、「マンション・アパート等の集合住宅である」が6割で最も高く、次いで「加入を勧められていない」「役員や当番が負担である」「活動や運営状況がわからない」が1割半ばであった。

(4) 自治会に求めたいこと

住みよい暮らしのために自治会に求めたいことについては、「いざという時の助け合い」が4割半ばで最も高く、次いで「地域の安全・安心（防犯灯の設置や管理など）」「近所住民とのつながり」と続いている。

4. スポーツへの参加状況について

(1) 1年間に運動やスポーツをどのくらい行ったか

この1年間に運動やスポーツをどのくらい行ったかについては、「平均すると週に3日以上（年151日以上）」が3割近くで最も高く、次いで「平均すると週に1日～2日（年51日～150日）」となっており、一方、「運動やスポーツをしたいが、出来なかった」が1割を超えている。

5. 自転車の利用について

(1) 自転車の利用頻度

どのくらいの頻度で自転車を利用されているかについては、「ほぼ毎日」と「1週間に3～4回」、「1週間に1～2回」の3つを合わせた【定期的に利用している】が約3割であり、「ほとんど利用しない」が5割を超えていた。

(2) 自転車を使いやすい街かについて

宇都宮市は自転車を使いやすい街かについては、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【使いやすい(計)】が3割であり、「そうは思わない」が5割半ばであった。

(3) 自転車のまちづくりを進めていくために必要だと思う取組

自転車のまちづくりを進めていくために必要だと思う取組については、「安全・安心に自転車が走行できる環境づくり」が7割で最も高く、次いで「自転車の走行ルール・マナーの徹底」「自転車から公共交通(鉄道・バス)へ乗り換えしやすい環境づくり」と続いている。

6. 宇都宮市産の農畜産物について

(1) 「うつのみや産」の農畜産物の購入について

「うつのみや産」の農畜産物を積極的に購入しているについては、「そう思う」が4割を超え最も高く、次いで「あまりそう思わない」が3割程度であった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「そう思う」が6割を超えて最も高く、次いで「非常にそう思う」が2割半ばであった。

7. 市政情報コールセンターと「よくある質問」について

(1) コールセンターの認知度

コールセンターがあることを知っているかについては、「知らない」が9割近くとなっている。

(2) コールセンター利用状況

コールセンターを利用したこと(電話をかけたこと)があるかを聞いてみると、「利用したことがある」は1%に満たなく、ほとんどの方が「利用したことはない」と答えている。

(3) ホームページの「よくある質問」検索システムの認知度

ホームページの「よくある質問」検索システムがあることを知っているかについては、「知らない」が8割半ばであった。

(4) ホームページの「よくある質問」の利用状況

ホームページの「よくある質問」を利用した(調べた)ことがあるかについては、「利用したことがある」は1割に満たず、大半の人が「利用したことはない」と答えている。

8. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地活性化に有効・必要な取組

今まで市や中心商店街などが連携・協力しながら取り組んできた事業のうち、中心市街地活性化に有効、必要だと感じる取組については、「商業活性化に向けた取り組み」がほぼ5割と最も高く、次いで「再開発事業」「歩道などの道路整備」と続いている。

(2) 行ってみたい、見てみたいイベント

中心商店街で賑わい創出に向けて開催されるイベントのうち、行ってみたい、観てみたいかについては、「農産物の直売や物産展」がほぼ5割半ばで最も高く、次いで「グルメ関連イベント」「音楽関連イベント」と続いている。

(3) 魅力ある中心市街地とするために必要な取組

中心市街地をより魅力ある場所、行きたいと感じる場所にするために必要な取組については、「魅力ある店舗の集積」が6割を超えて最も高く、次いで「駐車場の整備」「空き店舗の解消」と続いている。

9. 中央卸売市場の一般開放について

(1) 中央卸売市場の一般開放の認知度

中央卸売市場の一般開放の認知度と、来場回数については、「知らなかったが行ってみたい」が4割半ばを超え、次いで「知っているが行ったことがない」が約3割であった。

(2-1) 市場に来場して感じたこと

中央卸売市場の一般開放で、「ほぼ毎月」「7～10回」「1～6回」来場したと答えた方に、市場に来場してどのように感じたか聞いたところ、「価格が安い」が4割を超え最も多く、次いで「品質・鮮度がよい」が約3割であった。

(2-2) 今後必要となるもの

今後必要となるものについては、「開催日時の変更（回数や時間の増加含む）」が最も多く、次いで「品質管理の高度化」「休憩所」であった。

(3-1) 来場されなかった理由

中央卸売市場を一般開放の認知で「知らなかったが行ってみたい」「知っているが行ったことがない」「知らなかったし、行くつもりもない」と答えた方の行かない理由については「知らなかった」が5割で最も高く、次いで「近所の小売店・スーパーで十分」「何が販売されているか分からない」が共に2割台であった。

(3-2) 一般開放に望むこと

中央卸売市場を一般開放の認知で「知らなかったが行ってみたい」「知っているが行ったことがない」「知らなかったし、行くつもりもない」と答えた方に一般開放に望むものについては、「価格が安い」「品質・鮮度がよい」が共に6割を超え、品数や新品種より、品質がよく価格が安いものを望む傾向にある。

10. 宇都宮市の住宅用火災警報器について

(1) 全ての住宅等に火災警報器の設置義務の認知度

全ての住宅等に『住宅用火災警報器』の設置義務の認知度については、「知っている」が8割半ばを超え、認知度は高い結果であった。一方「知らない」と答えた方が約1割であった。

(2) 自宅に火災警報器の設置状況

現在、自宅に『住宅用火災警報器または自動火災報知設備』が設置されているかについては、「住宅用火災警報器が設置されている」が6割半ばであった。一方「どちらも設置されていない」が2割半ばとなっている。

(3) 火災警報器を設置していない理由

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」のどちらも設置されていないと答えた方に『住宅用火災警報器』を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が3割を超え、次いで「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が2割を超えている。その他の回答として、「費用がかかる」「設置したいがつい後になってしまう」という消極的な回答や「アパートで大家が設置していない」という意見があった。

(4) 火災警報器の点検等を実施状況

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されている方が『住宅用火災警報器等』の点検等を実施しているかについては、「布で拭くなどにより、定期的に掃除している」が2割半ばを超え、次いで「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」であった。

11. 小中一貫教育・地域学校園について

(1) 小中一貫教育の認知度

「小中一貫教育」の認知度については、「知らない」が4割で最も高く、次いで「知っている」が3割近くであった。

(2) 小中一貫教育を知った方法

「小中一貫教育」を何で知ったかについては「新聞、雑誌など」が5割を超え最も高く、次いで「市の広報紙（広報うつのみや、宮っこだよりなど）」「学校からの情報（学校だよりなど）」と続いている。

(3) 地域学校園の認知度

「地域学校園」の認知度については、「知らない」が7割半ばで最も高く、「知っている」は1割を下回っている。

(4) 地域学校園を知った方法

「地域学校園」を知った方法については、「市の広報紙（広報うつのみや、宮っこだよりなど）」が4割半ばを超えて最も高く、次いで「学校からの情報（学校だよりなど）」「新聞、雑誌など」と続いている。

1 2. 市税の納付方法について

(1) どのような場所で納付していますか

市税の納付方法についてどのような場所や方法で納付しているかについては、「口座振替」が4割半ば近くで最も高く、次いで「金融機関窓口」「コンビニエンスストア」と続いている。

(2) 納付方法に対する感じ方について

現在の納付方法は、どのように思うかについては、「納めやすい」が5割を超え最も高く、次いで「どちらかといえば納めやすい」となっており、納めやすいと感じている方は8割を超えている。

(3) 新たな納付方法が導入された場合、活用してみたいと思うもの

新たな納付方法が導入された場合に、活用したいと思うものについては、「金融機関のATMで納付ができる」が6割近くで最も高く、次いで「インターネットを経由してクレジットカードで納付ができる」「インターネットバンキングやモバイルバンキングで納付ができる」が共に1割台であった。

1 3. 宇都宮市のごみの収集について

(1) ごみの分別状況

分別してごみを排出しているかについては、「分別している」が9割を超えており、「時々分別している」「分別していない」は1割に満たない数値であった。

(2) 収集回数の満足度

現在の収集回数は十分かについては、「現在の収集回数で十分」が7割で最も高く、次いで「焼却ごみの回数を増やして欲しい」「資源物の回数を増やして欲しい」が共に1割半ばであった。

(3) 分別をしない理由

ごみの分別について、「時々分別している」「分別していない」と答えた方の理由については、「分別することが面倒」「分別方法が分からない」「分別するメリットがない」が共に2割半ばを超えている。一方「分別する必要がない」も約1割であった。

1 4. 健康づくりについて

(1) 毎日健康な生活をしているか

毎日、健康で充実した生活をしていると思うかについては、「まあしていると思う」が4割半ばで最も高く、次いで「あまりしていないと思う」「していると思う」「していないと思う」と続いている。

(2) 健康を意識した身体活動・運動を行っているか

健康を意識した身体活動（生活活動・運動）を行っているかについては、「はい」が半数以上であった。

(3) 健康を意識した身体活動・運動にどうすれば取り組めるか

どうすれば日ごろから、健康を意識した身体活動・運動に取り組めると思うかについては、「何かをやりながらできるなど普段の生活に取り入れられる」が4割近くで最も高く、次いで「移動や準備の手間など時間がかからない」「自分の健康状態を知って必要性を感じる」「ワンコイン（500円）程度で取り組める」「一緒に取り組む人がいる」と続いている。

15. 生物多様性について

(1) 生物多様性という言葉の認知度

生物多様性という言葉の認知度については、「聞いたことはあるが意味は知らない」が4割を超え最も高く、次いで「まったく知らない」が3割半ばであった。

16. 食生活について

(1-1) 外食の利用頻度

外食の利用頻度については、「月に1～3回」が4割を超え最も高く、次いで「ほとんど利用しない」と「週に1～2回」が共に2割超えであった。

(1-2) 中食の利用頻度

中食の利用頻度については「月に1～3回」が3割近くで、最も高いが「週に1～2回」「ほとんど利用しない」も同じく2割台であった。

(2) 外食・中食のメニューを選ぶ理由

外食・中食のメニューを選ぶ理由については、「そのときに食べたいもの」が7割を超え最も高く、次いで「価格が安いもの」「栄養バランスのよいもの」「家庭で作ると手間がかかるもの」と続いている。

(3) 健康生活を送るため、外食・中食を提供する飲食業者に対しメニューや表示などの希望

飲食業者に対しメニューや表示などの希望があるかについては、「野菜たっぷりのメニュー」が4割半ばで最も高く、次いで「カロリー、食塩量等の栄養成分の表示」が3割半ばで、「カロリー控えめのメニュー」「減塩のメニュー」「脂肪控えめのメニュー」「地場農産物を使用したメニュー」「栄養情報の表示（産地、健康情報など）」は共に2割台であった。